

前略

ペアレンツキャンプの皆様いかが過ごしておられるか。親子でお話になり、1年半の支援を卒業してこなくて振り返りが出来ていること本当に感謝しております。

3人兄弟の次男は勉強は苦手でしたが友達は多く、普通に通学をしていました。小学生になってから片頭痛持ちになりました。数ヶ月に1度程度学校を休むことはありましたか、反抗期から頭著になりました4年生の3学期から片頭痛回数から3回位に増え、5年生の5月、運動会を終えた頃、その日は突然やってきました。ある日の晩、なかなか寝ない息子を叱り、反抗的な息子の態度に私もむきになり、言い争いかエスカレート。そして最後に息子は「俺、もう学校に行かないから!!!」と大声で叫び、次日から有言実行するかのように不登校の日々が始まりました。

突然の宣言に両親で動搖し、不登校に関する本を色々読み、学校の相談室も利用しました。「休みたいなら無理に行かせ

「なくてもいい」、「優しく接して甘えさせることも必要」、「気持ちが落ち着けば登校するようになる」等の諂ひを信じ、腫れ物に触れるかのように息子の反応を見ながら接し、登校に向け試行錯誤しましたが、状況は変わらぬまま。友達も多く、学校でいじめられているわけでもなく、先生との関係も良好なのに、学校には行きたくない、「行く必要はない」と張り、休んでいる息子へ友達から温かいメッセージ入り連絡票、毎日届き、その手紙はどんどん積み重ねられていきました。夫婦共働きのため日中一人で家にいる息子が、配で仕事を辞めた方がいいのではないかと母親として小説み、通勤途中に何度も涙していました。思い悩む日々が続くにつれ、息子から執拗に何十回もの電話やメールがあたり、掃除機の上で母を叩いたり物にあたったりと母親や弟に対する言葉や身体的な暴力は増し、これまで小学校の卒業式にも出席せず、中学校にも行かなくなってしまったのではないか、と先の見えないトンネルに入り込んでほったかの様に不安に苛まれました。

不登校になって7ヶ月位経た頃に夫が水野先生の著書「無理に学校に行かなくっていいは本当か」に出会い、夫婦で読みました。その内容に衝撃を受けると同時に希望の光が見え、手を差し伸べられ救われた感覚を今でも覚えています。その後も父親がいない時に限り母親を罵倒し、物を投げつけ、弟に暴力を振るい、自分の行動で感情を抑制できずに「死にたい」とまで口にするようになりました。これ以上の現状を放置していくと何を変わらないと思いつアレントキャンプに申し込み、家庭教育支援から入りPCMを夫婦で学び始めました。

日々の出来事を家庭内や電話相談で伝え、鈴木先生からご指導いただき学んでいく中でいかに母親が過干渉であるか、子供を信じていないかに気付かれ、しきり築かれていたと思つていた母と子、父と子の関係性が崩れている現実に直面しました。アティブリスニングやアバセージ等理解していくも最初は思うようにいかず、悩み、反省し、また試みる繰り返しじゃいか、母親の大庇が

変わっていくことで子供も変わっていくと信じ、息子の暴力や暴言等も
しっかり向き合っていきました。そんな母親を試すかのように、母と息子
だけが家にいたある日のことでした。大声で叫びまくる息子の暴言に
悲い泣めに対応をしていると「俺なんか死んだ方がいいんだ」死ぬ
から」と言って、息子は2階に駆け上がっていきました。少ししてから
様子をそっと見に行くと腰高の窓の縁に座りこんで飛び降りようとしている息子がいました。さすがにドキッとはしてか、毅然とした態度で
背後からしっかり息子を抱きかかえると母親に身を委ね、降ろしてくれるのを待っている息子の気持ちを息子の背中から感じとれました。
ある日突然やってきたように思っていた不登校の日々は突然
ではなく、メシティで過干渉になり、片頭痛も一時的な急けだと思
い、息子の気持ちにしっかりと耳を傾けず、親のエゴで、息子を
追いつめてしまった結果であり、必然的だったのです。それに気付いた
時本当に息子に申し訳ない気持ちでいっぱいになり、またそれに
気づかせてくれた事に感謝の念が込みあがっていました。

5年生の林間学校は初日から片頭痛で参加出来ず。体調が回復してきた夕方から車に息子を乗せ、3時間かけて群馬まで父親が連れて行った事もありましたが、5年生の2学期の間はほとんど登校できませんでした。担任の先生が何度か夕方に家庭訪問してくれたり、夜の暗い通学路を「足慣らし」と言って息子と一緒に散歩し、1時間位色々な話をしてくれた事もありました。友達も迎えに来てくれるようになり、「3学期になったら行く」とは言うようになっていたのまだまだ「気分に波があり不安も多かったのですが、辻先生の復学支援に移行してからは電話相談で日々の小エは出来事にも丁寧に耳を傾け、PCMの活用法を具体的に教えていただき本当に心強く、有難かったです。先生から学んだ事は常に夫婦で共有し、息子と向き合っていくうちに少しずつですが息子の心に変化が生まれ、母親への暴力は減っていました。元々、友達が多く不登校中でも友達と遊ぶ事もあつたのですか、5年生の春休みに友達の家に泊まりに行き、友人宅から登校

したのをきっかけに「徐々に登校できる日が増えてきました。またまた大声で叫んでみたり、朝からイライラして母親に対して反発的な言動はあり、登校を行き済り、私も仕事に遅れてしまった日の事でした。帰宅すると一通の手紙が寝室にそっと置いてありました。そこには「お母さんへ　お母さんや会社の人をこまらせマごめんなさい。そんなことはいけないとわかっていても起きるのかおもいと学校に行くのがいやになってしまはず。本当にごめんなさい」と息子のメッセージが書かれていました。理由も言わず学校には行きたくないと言われ、攻撃的だった息子が素直な気持ちを表現してくれたことが嬉しく、息子の心の変化を実感しました。

6年生になってからは登校日数が増え、気分変調等はあるものの「学校には行かなくてはいけない」という考え方で息子にも根付き、運動会、修学旅行等にも樂しくて参加ができるようになりました。また、5年生の時に反対とあまり遊べなかつた時間を取り戻すかのように毎日 反対と遊びまくり、片頭痛

の回数も減っているのを息子が実感し、中学生になることを意識して会話をするようになりました。辻先生の具体的なアドバイスにより、この頃になると私もアクティブライシングやアイメッセージ等の対応、母と父の役割分担が定着し日々の小さな出来事にPCMを自然と実践できるようになりました。そして、卒業に向けての担任へのメッセージカードには「2年間支えてくれてありがとう」と書きました。とくに5年生の時に家に来ていつしょに話してくれてありがとうといいました。中学でもがんばります。」と記されていました。みんなに激しく暴力を振るい、暴言を吐き、自暴自棄になっていた時でも周囲から自分を支えてくれている事を感じてくれていた。それに 대해感謝の気持ちを伝えられるようになって息子の言葉に胸が熱くなりました。泣き上げるものになりました。そして、不登校になっていた1年半は長い人生の中で決して無駄ではなかった、息子を信頼せず過干渉になり過ぎていた事に気づき、親としての関わり方を見直すべき重要な時間であったのだと思えるようになりました。ペアレンツ

キャンプとの出会いがなければ今がないと思えるほど先生方の熱い支援にパジャマ感謝しております。本当にありがとうございました。

現在息子は中学校に順調に登校し、バスケット部にも所属して楽しい学校生活を送っています。苦手な勉強に対しても「彼なりに向き合い頑張っています。先日、息子が唐突に、「お母さん、人間で成長するんだね」と話しかけてきました。何故か感じたのか聞くと、「俺、小学生の頃は頭痛で学校に行かないことがあつたけれど…今は何かあって対処できるようになったんだよね」と。何気ない突然の息子の発言に「そりなんだ」成長を感じられる、すごいよね」と笑しながら胸が熱くなりました。

子供には無限の可能性があり、個々の個性で彩られ、喜怒哀樂を感じながらその才能を開花させていく。その成長過程における親の関わり方で、いつもも蕾のままで止まってしまうのか、過干渉で枯らしてしまうのか…美しい花を咲かせるのか、と大きく変化させてほうことに改めて気づかさせていたしました。ペアレンツキャンプに

出会い、そして金林先生、辻先生の熱いなご指導をいたさながら
こうして復学を果たすことができ本当にありがとうございました。先生方の
心強く、温かな支援に敬服し、卒業した今でも日々感謝して
います。今、息子は新しい枝葉を伸ばし、再び成長いたしましたが
中学、高校とこれからまた乗り越えなければならぬ壁はある
と思います。ハ・アレン・キャンプで学んだ事をこれからも夫婦で実践
しながら子供を信じ、自分の力で乗り越えていかれるよう見守っていき
たいと思います。そして不登校で悩んでいる多くの家庭がPCMを
学び、家族で新たな一步を踏み出せる事を願っています。